

第2回高石市行政計画審議会 議事結果概要

開催日時	令和元年12月20日（金） 午前10時30分～午後0時10分
開催場所	高石市役所 別館3階 多目的ホール
出席者	日野委員（会長）、西村委員、久保田委員、山内委員
欠席者	鈴木委員
議 事	議題1 会長の選出について 議題2 第2期高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略の諮問について 議題3 第2期高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について
資 料 等	次第 委員等名簿 国・大阪府の方針について 高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標評価シート 次期高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略コンセプト案

発言者	発言内容
事務局	本日の審議会は、委員委嘱後、最初の審議会となるため、会長が選出されるまでの間、事務局が審議会を運営する。 早速議案へ入るが、「議案第 1 号会長の選出について」、高石市行政計画審議会条例第 5 条第 2 項の規定により、委員の互選によることとなっているが、何かご意見等はあるか。
久保田委員	これまで行政計画審議会の会長をされていたという実績を踏まえ、日野委員はどうか。
事務局	ただいま、日野委員を会長に推薦する旨があったが、意見等はないか。
一同	(異議意見なし)
事務局	異議がないようなので、会長は日野委員にお願いしたい。それでは、会長においては、高石市行政計画審議会条例第 6 条第 1 項の規定により、議長として議事進行をお願いします。
日野会長	ただいま会長就任の推薦を受けたので、議事を進行する。まず、副会長の選任だが、高石市行政計画審議会条例第 5 条第 4 項の規定により、会長が任命することとなっている。 人口ビジョンにおいて人口減少社会の問題を扱うが、少子化問題は重要であることから、子育て環境、教育環境に造詣の深い西村委員にお願いしたい。
日野会長	それでは次第に沿って、議題 2『第 2 期高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略の諮問について』審議する。
事務局	本日市長においては、他の公務の都合により出席がかなわないため、小林副市長から諮問させていただく。
小林副市長	『第 2 期高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について、高石市行政計画審議会条例第 2 条第 10 項の規定により諮問する。

事務局	副市長においては、このあと他の公務があるため、ここで退席させていただく。
日野会長	副市長の退席前に、何かご発言等はないか。
小林副市長	本日市長は墓地組合議会のため欠席しており申し訳ない。総合戦略については庁内で議論中である。次のビジョンを示す大事な戦略なので、日野会長含め各委員のご意見等を踏まえ、より良いものを作りたいと考えているので、タイトな時間で申し訳ないがよろしくお願いします。
日野会長	それでは市長より諮問のあった案件の審議を行う。 『第2期高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略』の策定に関連して、まずは国及び府の計画内容について事務局より説明をお願いする。
事務局	市町村が地方版総合戦略を策定する際は、国及び都道府県の総合戦略を勘案して作成することとなっているので、次期高石市総合戦略策定の議論に先がけて、国と府の方針を紹介する。用語については、分かりにくいものもあるため、都度補足をさせていただく。 まずは国の方針から説明する。4つの基本目標、『①地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする、②地方への新しいひとの流れをつくる、③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、④時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する。』については、次期においても継続されることになっている。 これらに、6つの新たな視点が追加される。「地方へのひと・人の流れを強化する」については、関係人口の創出・拡大と寄付等による地方への資金の流れを強化していくという考え方である。「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々をさす言葉である。地方圏は、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面しているが、地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が入り始めており、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されている。 「新しい時代の流れを力にする」については、Society5.0の実現に向けた技術の活用やSDGsを原動力とした地方創生などである。 「Society5.0」とは、サイバー空間つまり仮想空間とフィジカル空間つ

	まり現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会のことである。「SDGs」（持続可能な開発目標）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標のことである。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものであり、日本としても積極的に取り組んでいる。「地方創生」とは、人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し、政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することである。 「人材を育て活かす」については、地方創生の基盤をなす人材の掘り起こしや育成、活躍を支援することである。 「民間と協働する」については、公共団体だけではなく、組織や企業と連携していくということである。 「誰もが活躍できる地域社会をつくる」については、誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる地域社会を実現していくことである。 「地域経営の視点で取り組む」については、地域の経済社会構造全体を俯瞰して地域をマネジメントしていくことである。ここでの「地域経営」とは、これまでの縦割り行政、削減型行政改革といった従来型の行政運営を根本から見直し、市町村がコスト意識、スピード意識、サービス精神など経営感覚をもって地域をマネジメントすることである。 以上が6つの視点である。これらの視点の中から、市の今後の戦略に合致するものについては、検討を進めていく必要があると考えている。 次に大阪府の方向性と戦略、新たな視点について説明する。まず、方向性については3つある。 ①若者が活躍でき、子育て安心の都市「大阪」の実現、②人口減少・超高齢社会でも持続可能な地域づくり、③東西二極の一極としての社会経済構造の構築となっている。また、それらを推進していくための戦略が6つある。 「若い世代の就職・結婚・出産・子育ての希望を実現する」、「次代の「大阪」を担う人をつくる」、「誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり、安全・安心な地域をつくる」、「都市としての経済機能を強化する」、「定住魅力・都市魅力を強化する」の6つである。さらに、これらに新たな視点として、5つが追加されている。
--	--

	「万博のインパクトを活かした取組みの推進」、「SDG s の推進」、「スマートシティ実現に向けた取組み」、「外国人材の活用」、「環境にやさしい都市の実現」となっている。 「スマートシティ」とは、都市の抱える諸課題に対して、ICT 等の新技術を活用しつつ、マネジメントが行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市または地区のことである。 具体的には、国内の具体事例としては、千葉県柏市などがあげられる。全ての視点に取り組む必要はないとされているが、国と府の方針を勘案しながら高石市の総合戦略を策定していこうと考えている。
日野会長	今日の朝刊にも国の総合戦略の記事があったが、国として東京から地方への人口移転については諦めたようで、当面は関係人口を増やしていこうとのことであった。東京一極集中が止まらないなか、先般 NHK で 8 日間にわたり首都直下型地震が取り上げられており、少しは地方へ移動する人が出るのかもしれない。ただ、企業の本社機能は東京にあるので、まだ地方への人口分散は進んでいない。国の言う人口の地方分散、機能分散と言う話に本市は関わっていないが、本市がそのような機能を引っ張ってこれそうならば、反映することも良いが、どちらかというと府の方針の方が本市の戦略とは関係が強い。いま事務局から説明にあったことについて、各委員から質問はあるか。 いつも耳障りのいいものばかりが並んでおり、実際どうすればよいのかという疑問もあろうかと思うが、上位計画でこういう定義があるということを理解いただきたい。一方、スマートシティと言う言葉は割と最近出たもののように思われるが、かつての筑波学研都市、京阪奈学研都市のような職住近接政策と合わせて IOT の先駆け的なことをやっていた。筑波学研都市のまち開き以降、しばらく自殺問題もあった記憶があるが、生活のオンオフが難しかったようだ。その後は改善されたようだが、京阪奈学研都市では大学機能も地域に集めたが、一部は結局街なかへ戻っていった。 IOT に特化したら、外から何でもコントロールできるようなことが言われがちだが、本来のスマートシティは違っていると考えます。 本市として考えるときはこういう概念で考えようという意見があれば言って欲しい。あくまで国・府の定義での話をさきほどしたのであって、とらわれることはないと思う。 本市の戦略策定の説明を受けた後、改めて質問等を受けることにしたい。それでは事務局より次期総合戦略の説明をお願いする。

事務局	まず、スケジュールをご説明させていただく。 本日、12月20日が第2回行政計画審議会となっており、次第のとおり、議題1として会長の選出について、議題2として高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略の諮問について、議題3として次期高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について、を議題としている。 次に、第3回行政計画審議会においては、次期総合戦略の説明と審議が内容となる。 最後に、第4回行政計画審議会においては、次期総合戦略の審議と意見のとりまとめが内容となる。それら3回の行政計画審議会によって、次期総合戦略を策定してまいりたいと考えている。 次に、8月に実施した第1回行政計画審議会で審議していただいた4年間の効果検証について簡単に振り返らせていただく。 『高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略基本目標シート』をご覧願いたい。 基本目標1の『子どもを産み育てやすい環境を整える』については、4年間の評価について一部未達のものがあるものの、概ね順調に推移している。特に子育て支援施設は周辺都市への貢献も評価できるなど概ね順調と効果検証をいただいた。 2つめの『働きやすい環境を整える』は、KPIとしては減少傾向にあるように見えるものの、実績数としては増加傾向にあるという一定の評価をいただいた。 3つめの『いつまでも健幸にすごせる環境を整える』については平成30年を含めて概ね順調との評価いただいているが、適正なKPI評価ができるようにとのご意見もいただいた。 最後の『住みたくなる環境を整える』については4年間の経年変化としては一定効果があったととの評価であり。他市と比して特筆できるものは市内外にもっとPRしてゆくべきとのご意見があった。 以上、第1期の効果検証を簡単に説明させてもらったが、次に、これを踏まえてカラー横型資料を説明させていただきたい。 資料左側及び中側のものは第1期の話であり、継続することにした。 人口ビジョンの方向性は、『働きながらでも子育てができる環境を整えるとともに、子どもを産み育てやすい環境づくりを進める』、『いつまでも健幸にすごし、支え合いのできる地域づくりや安全・安心なまちづくりを進める。』、『子育て世代や同居近居を望む高齢世代に向けて、文
-----	---

	教都市を始めとした魅力のPRや転入のきっかけづくりを進める。』である。 そして、高石市総合戦略の基本目標は、『1. 子どもを産み育てやすい環境を整える』、『2. 働きやすい環境を整える』、『3. いつまでも健幸にすごせる環境を整える』、『4. 住みたくなる環境を整える』である。 検証では概ね順調に推移しているとの評価があり、国・府のように従前の内容は継続する。高石市における新たな視点については、現行の3つの方向性に沿った基本目標に新たな視点を追加する。コンセプト(案)としては、『住む人にやさしい、また訪れたくなるまち高石』で、①『健幸のまちづくりの深化・高度化』、②『優良なストック・空間の有効活用』、③『人材育成・多世代交流の推進』の3つの視点を考えている。 1つめの視点として、『健幸のまちづくりの深化・高度化』については健幸のまちづくり協議会事業で、健幸づくり事業の充実健幸ポイント事業を市内企業と連携し、また他の自治体と広域連携することによりさらなる拡充を図る。また創業支援については健幸リビング・ラボにおいても他の自治体と広域連携を行うことにより、モニター事業の拡充を図る。 2つめの視点としての高石市リノベーションまちづくり推進事業は既存ストックのリノベーションを挙げている。例えば旧保健センターは、「(仮称)高石市公民連携推進協議会」のオフィスとしてだけでなく、高齢者なども含めて、集い・賑わいを創出できる収益施設を兼ねたコミュニティスペースとして整備しようと考えている。また、市内の空き家や空きスペースを民間事業者を活用してもらうことを想定している。 3つめ視点としての駅周辺リノベーション活性化事業は、令和3年の南海本線の高架後、商業圏が繋がる高石駅周辺エリアを商業施設に加え、多世代が交流し、生活を豊かにするまちの拠点として活性化させるべく、官民連携で進める「えきまち連携会議」を組成し、一体整備をする。アンケート調査・社会実験を通して市民のニーズを反映させていきたい。 拡充事業としては水辺の地域活性化事業を提案しており、現在の事業である旧市民会館・図書館の活用エリアを浜寺水路周辺エリアまで広げて活用し、賑わいと雇用を創出する。また、「高石市リノベーションまちづくり推進事業」・「駅周辺リノベーション活性化事業」との相乗効果によりインバウンドを誘致する。 また、高石市リノベーションまちづくり推進事業は、リノベーション事業推進主体の組成により、市内の遊休施設を民間事業者が活用し、起
--	--

	業することによってまちに賑わいと雇用を創出するべく、中心組織となる「(仮称) 高石市公民連携推進協議会」を組成する。また、その民間事業者を発掘し、育成・支援する。駅周辺リノベーション活性化事業はこちらにも関わるが説明内容は同じなので割愛する。
日野会長	詳しい説明をしてもらった方が良いかと思う。
事務局	それでは各担当課から詳細に説明させる。
事務局	健幸のまちづくり協議会事業を『拡充』することを考えている。具体的には、現在の健幸ポイント事業について、3000 人の参加者数を 4000 人へ増加させる。新たな取り組みとしては、地域企業との連携を考えている。また、アンバサダーを育成して、口コミによる健康情報の発信が重要と考えている。 リビングラボは健幸ポイントと同じく、広域連携したいと考えている。健康フェスティバル&マルシェについては健康啓発活動として継続していきたい。
事務局	高石リノベーションまちづくり推進事業について説明する。事業概要としては、市内の遊休施設たとえば保健センターなどを民間事業者を活用し、起業することでまちに賑わいと雇用を創出するべく、中心組織となる「(仮称) 高石市公民連携推進協議会」を組成する。また、その民間事業者を発掘し、育成・支援していきたいと考えている。たとえば、旧保健センターをコミュニティスペース・創業支援センターとしてリノベーションし、創業者を発掘するというを考えている。
事務局	駅周辺リノベーション活性化事業を説明する。事業概要としては、令和 3 年の南海本線高架化により商業圏が繋がる高石駅周辺エリアを、官民連携の「えきまち連携会議」を組成して一体的整備するとともに、多世代が交流し生活が豊かになるまちの拠点として活性化させるべくリノベーションを図る。リノベーションは単に施設改修だけでなく、空間の使い方の見直しも含む。「えきまち連携会議」は駅前広場と高架下を広域集客施設として捉えてコンテンツを検討し、行政、鉄道事業者をはじめ、官民連携の会議を定例化し、行政の箱物づくりは行わず、市民ニーズに沿ったものをつくる。 水辺の地域活性化事業について、概要は浜寺水路の付近に位置する、

	旧市民会館・旧図書館などの行政の遊休地、活性化が望める各施設等を公民連携の手法でリノベーションし、府営の浜寺公園等とも連携しながら、オンリーワン都市としての再生を目指すものである。あくまで案ではあるが、プロスポーツを行える施設、宿泊施設、水辺を生かしたテラス、健康のテーマパーク等を目指せればと考えている。
日野会長	第２期総合戦略案では、新しい視点案の事業を盛り込んだものが作成されるとの理解で良いか。
事務局	次回、第３回では、第２期総合戦略案として具体的事業があるものについては、既存事業の継続可否を含めてご審議をお願いしたい。
日野会長	これまで第１期の総合戦略に基づく事業について評価をしてもらったが、それぞれの目標に対し、施策の評価をしている。施策が決まらなないと次に進めない。 今日の話は事例だと思うし、次回で各事業の概要が揃うのは難しいことも想定される。今回諮問されたので、答申しないといけないが、どこまでの内容で答申すればよいのか。
事務局	ご指摘の件について、本日は第２期の総合戦略として初めてご紹介させてもらっている。かなりタイトなスケジュールで大変申し訳ない。本日はまず、国・府の方針がどういった方向性をもっているのか、そして高石市はどう進めるのかという基本的なことを説明させてもらった。 各事業については『基本目標評価シート』を配布しており、担当から総合戦略事業の達成、未達成の状況、審議会での各委員から KPI 見直し、継続するか否か等の色々な意見をいただいていた。次回の行政計画審議会では具体事業のご提案をする。
日野会長	第３回行政計画審議会で具体施策まで盛り込んだものを作ることかということを知りたかった。第１期の総合戦略に対しては既にヒアリングもされており、継続すべきかどうか等を決めている。 一方で新たな視点に関する具体案となると我々だけで対応できないものもある。第１期の総合戦略ではたくさんの専門委員を集めてもらい、それぞれの見解を教えてもらった。この点についてはどうお考えか。
事務局	新たな施策に係るものは専門員の意見を伺いたい。

日野会長	府・国の方針とあったが、専門員にはどういう分野でどんな人が良いか、どういう話を伺うかということが大事だが、いま何か決まっているのか。
事務局	事務局にて速やかに人選し、会長と調整のうえ、各専門員へ個別聴取して行く予定である。
日野会長	事務局から説明のあった件について、意見、ご提案はないか。また、新しい方針が示されたことに対し、こういったことが大事等の意見をいただきたい。基本目標へ沿ったかたちで書かれているので、それについて意見を伺いたいので、まず西村委員より願います。
西村委員	今回、新しいコンセプトの話もあったが、子供を産み育てやすい環境、高石市で子供を育てていこうという世帯が転入、定着してくれる環境づくりが引き続き大事である。働きながらの子育てが当たり前の時代において、高石市はこういう点で育てやすい、充実した環境であるということをもPRし、分かってもらえるよう周知して欲しい。 自分の経験上、高石市は子育てしやすいところだとは思いますが、他市の人と話しをしてもそうだと思ってもらえてないと感じるので、周知するにあたっては工夫が要るのではないかな。 新しいコンセプトの『住む人にやさしい、また訪れたいまち高石』について新たな施設を作るという話があったが、地域の高齢者、子供もそうだが、他市へ働きに出ている若い人々が高石で健康的に生活、交流するチャンスが増えるような視点がそこには必要である。自分もそうだが、普段市外で働いていると、例えば週末に行ける行政で開催している健康教室等に行けないなど不便も感じるので、高石で生活している人への観点もコンセプトに入れてもらえれば良いと思う。
日野会長	続いて基本目標2について、山内委員より意見を伺いたい。
山内委員	商業に携わる者としての観点では、『働きやすい環境を整える』の指標が下降になっている点が気になり、その原因は色々あろうが解決してもらいたい。高石市内では平成に入ってから企業数、従業員数ともかなり減少している。人口減少、少子高齢化であるなか仕方のない現象だが、魅力ある高石、住みよい高石を作るうえで、臨海部の空き地や内陸

	での空き地問題の解決が課題である。土地は資産であり、また武器であるが、臨海部への進出にかかる規制や、いままさに立地する大手企業が撤退意向を示しているなど抱えている問題は多い。
日野会長	続いて、基本目標３について久保田委員の意見を伺いたい。
久保田委員	健幸のまちづくりの観点では、色々な施策をしてくれている。また、健幸ポイント事業は色々手探りではあるが、少しずつ拡充されていると感じる。しかしながら人数制限がある等の問題もあり、だれでも参加できるものが良い。 前回、意見として出していなかったが、福祉バスは利用者増の半面、不便になったとの声もあるので、市民の声もしっかり拾ってほしい。広域連携は面白い取組みで、ポイント事業もそうだが、福祉バスについてもできれば連携してほしい。他市への病院に行きたいとの市民の声があり、福祉バスの広域連携が難しいことは理解しているが、検討して欲しい。
日野会長	本日は残念ながら鈴木委員は欠席であるため、次回の審議会において意見を聞くことができればと思う。 私の方で整理しながら進めたいが、市には総合計画があつてここで基本的な構想があり、まちづくりの目標などがあるが、本来総合戦略はそれを効率的に進めるためのものであつて、全部混ぜ込むようなものではない。特にどこへ投資するのか、そのために戦略を立てる。総合戦略に記載のことしかやらないというのではなく、こういうところへ特に投資が必要だと言うことを考えるのが戦略である。それを踏まえ、各委員にご意見をもらいたい、そもそもこのコンセプトで良いのか。総合計画ではどうなっているか、目標がどうなっているかをまず考えなければならない。 個人的に考えるのは『いつまでも生きがいを持ち続けられる賑わいのまち高石』なのかなと思う。いまコンセプトに足りないと思われるのは高齢者の活躍である。総合計画でもそうだが、数十年後には高齢者人口割合が30数%となるが、高齢者の定義は次第に変わっていくと考えられる。いま、定年が70歳になっていくと言われているが、それならば高齢者割合は減るので、いまできることを考えていく必要がある。実際にはまだ働けるけれども、定年なので仕事を辞めた人はとてもポジティブな状態にあるはずである。彼らをもっと活用してあげなければならない。

	いが、本市では就業のことしか書いていない。フルで働くのは嫌だけど、まだ働ける、役に立ちたいという人も多く、それらが生きがいになり、外出機会も増え、外を歩き、結果的に健康的になるので、自然なかたちでの健康なまちづくりが良いのではないか。 自分の元同僚でいまでも働いている人は少ないが、本市に住むリタイヤ者に人材登録してもらい、彼らを活用した行政課題の解決、例えば放課後の学童保育に当たってもらうというようなことができれば思う。兵庫県川西市ではプログラミング教室にそういった人たちを活用していると聞き、働いてもらうということも良いが、自分たちの持っている能力を活用してもらうという考え方もある。 また、別に働きたくないという人は孫の面倒を見るということもあるが、いまは孫と行くような場所が少ない。かつてあったようなスーパーの屋上遊園地や鉄道会社がやっているような遊園地が消えて、いまや巨大テーマパークばかりとなっており、孫と気軽に行けるような場所が減ってしまっているので、そのような場所も必要であろう。高齢者の活躍できるまちづくりを考えると、国の目標に引きずられ過ぎてはいけない。起業も大事だけれども、市民の欲しているものをつくる視点も必要だ。 幼児教育の無償化が始まっているが問題も出ている。ある市では施策として保育士等の待遇改善もやっているらしいが、本市としてできることがないかということも聞きたい。
西村委員	いまのところ高石市では待機児童はゼロだが、幼児教育を無償化してからどうなっているのかという点は確認したい。大阪市、堺市はいまも保育所には入りにくい、大阪市ではホームページでその状況がわかる。高石市でもそういった情報提供を行えば、高石市では保育所に入りやすいんだとなるのではないか。ただ、逆に集まりすぎると待機児童が出てしまう問題もあるが。

日野会長	NHK の特集によると、いままで保育園へ預けていなかった人が預けたことにより、待機児童が増えてしまった例もあるそうだ。また、新たな給食費等の徴収により逆に低所得者の負担が増したり、延長保育の増加によって保育士の労働環境悪化等につながってしまうなどの問題も出ているらしい。保育のほか、交通や介護といった職種は全職種の平均給与より 2 割程度少なく、それがためにいま人手不足になっている。教育無償化に伴う弊害も出ているかと思うので、高石市の現況を是非調査してもらい、どう保育環境を改善すべきかということも考えてもらいたい。 いま国がスーパーメガリージョンを進めているそうだが、昔で言う太平洋ベルト地帯のようなものかと思う。高石が昔のように臨海部で工場誘致をどんどん進めていった手法が良いのか等山内委員の考え方を伺いたい。
山内委員	戦後、日本は商工業が発展してきたが、高石市は臨海部の工業と内陸部の商業が半々ぐらいでちょうど良く発展してきた。 いま、臨海部の位置づけが重要となるが、これからは工業、エネルギーだけでなく『物流』が重要ではないか。高齢化が進むともっと物流が重要になるが、好立地にある高石市はそのうち陽が当たるはず。臨海部の活用はとても大事なので、行政にもよく考えてほしい。
日野会長	例えば物流の専門家の話を聞くというのも良いかもしれない。大阪市の南港エリアにはたくさんそのような企業が立地している。 さきほどの福祉バスの話について、国の立地適正化計画の考え方では拠点間を公共交通で結節していこうとなっている。いま高石市の福祉バスは利用者限定だが、将来は皆が使えるようにしていくのか、どうあるべきかについて何か感想はあるか。
久保田委員	交通に関する改善点については、お金をかければできるものは多いと考える。 2 台体制時に福祉バスをコミュニティバス化して誰でも乗れるようにという話をしたことがあるが、現在福祉バスは 3 台体制だが、高齢者が多数利用しているのを見ると、この状態で高齢者以外の乗客を増やすというのは難しいかと思う。 市民の意見を聞くと、バス停まで行くのも難しいという人も多い。そのような人にも外出してもらうことは課題と感じる。住みよい街とする

	ために足りないことも多く、何が最適かというのは難しいが、行政としてどんな支援が可能かという観点も付け加えたい。
日野会長	買い物難民への施策を考えたとき、元気な高齢者と介護を要する高齢者がいるが、福祉バスに乗ることができる人をいまの年齢だけで区切ることが良いのだろうか。地方では公園などまで移動スーパーが来て、バスに乗ることができないような人がそこまで来て買い物をしているという事例もある。 皆さんに考えて欲しいのは、コンセプトがこれで良いのかということ。このようにすべき等も考えて欲しいが、併せて、このことについて知りたいので、このような専門家の意見を聞きたい等があれば言ってほしい。また事務局案に対しこれでよいか等含めたご意見をもらいたい。 水辺リノベーションについて、民間資本というが、彼らが投資してくれる立地、企画なのかという点も考えて欲しい。かつては企業へ売り込むために、いまでは考えられない優遇策を採った自治体もあったが、いまやそんなこともできないなか、収益施設を兼ねたコミュニティスペースなどそもそも実現可能なものなのか等よく検討してほしい。エネルギー施策とミックスして廃熱、余熱利用等を絡めれば環境省の補助金メニューを活用できるし、あと少し考えて欲しい。 また、駅周辺リノベーションについて、実験とあるがいつまで実験するのか。実験するということ自体はそもそも KPI ではない。事業化するための準備段階が実験なのであって、本来は事業化したときの評価が必要である。何を目指したもので、過渡期としてはこのような評価をし、最終的にこの KPI とするというような整理をせずしておいてほしい。 改めて、各委員は次回審議会に向けた要望、意見はないか。
山内委員	繰り返しになるが、高石市内の空き地の利活用は商業に携わる者として、喫緊の課題なので是非とも検討してほしい。
西村委員	高石市は子育てしやすいまちだということが若い人に効果的に浸透するようにできればと考える。
久保田委員	是非コンセプトにもあるように、健幸のまちづくりにおける広域化は大事だとよく理解できた。高度化、深度化はどうやっていくかという点は難しいだろうが、色々な案を出してもらい議論していきたい。

日野会長	事務局においては各委員の意見等を踏まえてほしいのだが、いつまでに我々は意見を出せばいいのか。
事務局	次回の第3回行政計画審議会は令和2年1月中旬を予定しているので、それまでに各委員のところへ伺えればと考えている。
日野会長	各委員のところへ意見聴取に行くということで良いか。
事務局	その通り。 また改めてご連絡させていただく。
日野会長	事務局が意見聴取に来るそうなので、色々と考えておいて欲しい。事務局はそれらを国や府の方針とどう結びつけるかについて考えておいてもらいたい。本日の議論はこれにて終了としたい
事務局	本日いただいたご意見、次回までに行う意見聴取を踏まえ、次回審議会で素案を示したいので、よろしくお願いします。